

5. コロンビアの体質 6

天理教コロンビア出張所長
清水 直太郎 Naotaro Shimizu

5.2 国民性のある程度の共通項

地理的な各地域の多様性の知識が分かったところで、人間を観察してみたい。とはいえ、日本人とは、米国人とはという定義は大変難しい。ただ「ケンミンショー」のようにある共通項はこういうタイプのようだ、というぐらいのことにしておきたい。例えば、「日本人」というと、集団主義、時間厳守、保守性、全員一致優先、年功序列意識（先輩・後輩）、世間体意識、などが挙げられるのではないか。

さて、コロンビアに関しては、地域性に関係無く北から南まで、また人種的にも関係無く「ザ・コロンビア人」という国民性を探ることにする。しかしながら、誤解しないで頂きたいが、「こういう傾向が多い」という数や類型が存在する、ということだけなので、以下に記述することは、決めつけや先入観など、コロンビアやラテンアメリカの人たちに対する「ステレオタイプ」的見方は避けつつもである。「〇〇人は～」という一般化は、ともすればレッテルを貼ったり、固定観念を作り上げたりして、最終的に偏見や差別的思考が生まれる可能性もあるからである。

*よく言われている性格的要素

コロンビア的（ラテン・アメリカ的）な性格は、1) 個人主義、2) 陽気（明るい）、3) 約束を守らないことが多い、4) 時間厳守ではない、5) 下心がある、6) 賢明、すばしっこい、鋭敏、7) 宗教に敬虔である。8) 見た目が大事、見栄っ張りである、9) おもてなしの心がすごい、10) 仲間意識がある。このように羅列してみたが、個人レベルでいうと、こういう性格の人間は国籍や地域に関わらずどこにでも存在していると察する。要は、程度と数の問題で、「〇〇という人が多い」ということである。再度断っておくが、「個人主義が悪いとか良いとか、集団主義が云々」という優劣は一切しないのでご理解いただきたい。

*個人主義について

「私たち、コロンビア人は骨の髄まで個人主義者である⁽¹⁾」とあるように、コロンビア人は他のラテンアメリカの国と比べても個人主義の割合が高いと言える。個人主義が目立っているのは、例えばサッカーのゲームでも見られることである。「ヨーロッパのチームはチーム全体で作戦を練り試合を運ぶが、南米のチームは個人プレーが多い」ということをよく耳にする。ある新聞にはこういう事が掲載してあった。「コロンビア（のサッカーは）チームでプレーしていない。どんな手段を用いても勝つという一つの目的をもった選手たちのグループだが、それは



エクアドル vs コロンビアの試合

<https://www.futbolred.com/seleccion-colombia/ecuador-vs-colombia-galeria-de-la-derrota-en-eliminotorias-sudamericanas-127445>

先日のエクアドルナショナルチームとの試合で明らかにされた⁽²⁾。この記事はコロンビアのチームプレーの悪さを酷評している。結果では6対1でコロンビアが負けたの

だが、やはり、個人プレーでの優れた選手が活躍するより、サッカーはチームプレーが大事ということを言及していた。

コロンビアで少しずつ個人主義化が強く進行しているという記事もある。

「私たち（コロンビア人）はますます個人主義になっています。それはコミュニティ活動の参加の度合いによって表れています。たとえば、12歳～17歳の53.7%、18歳～44歳の65.3%、45歳～59歳の60.5%、そして60歳以上の60%の人たちが共同体や公共の活動に参加していない⁽³⁾」。

けれども、「個人主義」に反対の意見も存在している。ある大学教授は次のように指摘する。

「コロンビア人は、協力することと競争することを同時にやってのけて見せている。それは、私たちが思っているほど個人主義ではないという証拠であり、私の研究調査では、ビジネスの生産性においても、小さなグループの協力態勢で利益を上げている結果も出ている⁽⁴⁾」。

なお、コロンビアで50年以上過ごしたタケウチ・ユウという日本人の大学教授が、日本人とコロンビア人との性格を分析している。

「一人のコロンビア人は一人の日本人よりも優れており賢い。しかし二人の日本人は二人のコロンビア人より賢い。なぜならこの二人のコロンビア人は、彼ら同士で本能的に不信感をいだき、距離をおくのに対し、日本人二人は連帯して、協力し、力を融合して各人の能力を強化するからである⁽⁶⁾」

コロンビアの名誉のためにも言うておくと、コロンビア人の個人主義について、強いかもしれないが、ひとたび目的をもって合力で行うことが決まれば、猛烈に協力し、一つの目的に向かってそれぞれの能力を結集して遂行する集団性は持っているのではないかと筆者は思う。

天理教コロンビア出張所創立40周年（2012）の祭典を迎えるにつき、コロンビア人の合力、つまり、彼らが集団主義を持っていることを目の当たりにした。壁を塗る人たち、電気・水道の営繕関係の人たち、はたまた造園業者、アトラクション係、演芸、食事関係や出し物の女性たち、それぞれが「創立記念祭」に向けて動いてくれた。途中で来なくなってくるのではないかと危惧したが、そんなこともなく、みんな最後まで頑張ってくれた。そこに感じたのは、コロンビア人の底力であった。

[参考文献及びURL]

- (1) Germán Puyana García, “Los Colombianos,” Panamericana Editorial, 2005: 39.
- (2) <https://diariolalibertad.com/sitio/2019/11/colombia-ganomas-por-la-individualidad-que-por-el-esquema-de-su-juego/>
- (3) <https://www.minsalud.gov.co/Paginas/Colombia,-una-sociedad-cada-vez-m%C3%A1s-individualista.asp> 健康保険省「コロンビア、より個人主義化する社会」
- (4) <https://www.urosario.edu.co/Home-V3/Investigacion/Divulgacion-cientifica-Ed-03-2019/Economia-y-Politica/Los-colombianos-no-son-tan-individualistas-como-se/>
- (5) 1927年生まれ。東京大学で物理を勉学。1959年コロンビア国立ナショナル大学で数学の講師として他の三名の日本の教授とともにコロンビアに来ている。
- (6) Germán Puyana García: 40.